

岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻

認証評価結果

岡山大学教職大学院の評価ポイント

- ・岡山大学教職大学院では「アクション・リサーチャーとしての教師」の育成を目指しており、「教育実践研究」科目群をコアにして教育課程が合理的に組まれている。そして、「理論と実践の融合」を具現化すべく、実践の省察を重視し、「私の見え」と「あなたの見え」の不一致状況を意図的に作り出し、思考に揺さぶりかけることでコミュニケーションの中で実践力を鍛えようと試みられている。
- ・岡山大学教職大学院と岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会とは良好な連携関係が築かれており、現職教員の派遣、学生の学修成果の共有、学校における実習の連携等がスムーズに行われている。また、学校における実習や学修成果に対する教育委員会や連携協力校からの評価も高い。
- ・実践研究の報告書の作成等は学校教員が高度専門職業人として実践力を高めていく際に、重要な手立てとなろう。岡山大学教職大学院では、実践報告の中で実践に関する新たな知見・発見・解釈等をまとめるべく、丁寧な指導がなされている。専門職を育てるための実践研究報告書の執筆はどのような内容がよいか、全国の教職大学院でも今論議の最中にあるが、引き続き岡山大学でも検討を期待したい。
- ・教職大学院の授業運営や教育研究活動には、これまでの大学組織にはみられない緊密な協働が必要とされている。日々のFD活動は、極めて重要である。岡山大学教職大学院の現在のFD等の活動は十分に評価できる。今後、岡山大学教職大学院が強化拡充していくためには、これまで以上の大人数が常時参加できるFDをどのように構築するかが問われてこよう。
- ・現在の専任教員は、学部や修士課程の教育に携わっている教員が比較的多い。今後教職大学院が強化拡充される際には、今まで以上の負担にならないように配慮していただきたい。また、学生定員も増えることから、事務組織の見直しも必要になるとと思われる。

平成30年3月26日

一般財団法人教員養成評価機構

I 認証評価結果

岡山大学教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）は、教員養成評価機構の教職大学院評価基準に適合していると認定する。

認定の期間は、平成 35 年 3 月 31 日までとする。

II 基準ごとの概評

基準領域 1 理念・目的

基準 1-1 レベル I：当該教職大学院の理念・目的が法令に基づいて明確に定められていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院の理念・目的は「国立大学法人岡山大学管理学則」第 60 条の 2 及び「岡山大学大学院教育学研究科規程」第 2 条第 3 項において、明確に定められている。

基準 1-2 レベル I：人材養成の目的及び修得すべき知識・能力が明確になっていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院が養成しようとしている教員像は、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーによって明確に定められている。

【長所として特記すべき事項】

平成 30 年度より教職実践専攻の入学定員を 20 から 45 名に拡大させ、教職大学院の強化拡充に努めている。

基準領域 2 学生の受入れ

基準 2-1 レベル I：人材養成の目的に応じた入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

アドミッション・ポリシーが明確に定められており、「教育実践研究」科目群をコアとしたカリキュラムが組まれているため、修士課程とは異なる特徴が示されている。学生募集要項や案内パンフレットを通して周知が図られている。

基準 2-2 レベル I：入学者受入方針に基づき、公平性、平等性、開放性が確保され、適切な学生の受入れが実施されていること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻の教育理念や目的に応じて、入学者選抜が行われている。入試の実施体制についても入試に関する委員会を複数組織し、担当業務を分けているなど公平性が保たれている。

基準 2-3 レベル I：実入学者数が、入学定員と比較して適正であること。

評価結果・・・基準の内容を満たしていると判断する。

実入学者数は、入学定員を満たしていない年度もあるが、概ね入学定員を満たしている。岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会との申し合わせにより一定数の現職教員派遣がなされている。

【長所として特記すべき事項】

教育学部の内部進学者の他、学内の他学部及び近隣の国公立大学からの入学者が多数おり、丁寧な入学案内がなされている。

基準領域 3 教育の課程と方法

基準 3-1 レベル I：教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、理論的教育と実践

的教育の融合に留意した体系的な教育課程が編成されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育課程は、教職大学院の目的を踏まえた「共通科目」「選択科目」「教育実践研究」から構成されており、理論と実践の往還を実現すべく学校における実習科目群と教育実践研究科目群が架橋されるように構成されている。今後、岡山県教育委員会が作成する育成指標との整合性を協議していくことが望まれる。

基準 3-2 レベル I : 教育課程を展開するにふさわしい授業内容、授業方法・形態が整備されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院の理念である「理論と実践の往還」を具現化すべく、双方向的なワークショップ型授業を中核にした授業方法・形態を展開するなど工夫した教育課程になっている。

基準 3-3 レベル I : 教職大学院にふさわしい実習が設定され、適切な指導がなされていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学校における実習をコアとする教育課程が実現しており、メンターの配置等、適切な実習が行われている。今後、「学校リーダー」を対象としたシャドウイング実習の実施方法について更なる検討が望まれる。「自己課題」と「学校の課題」を統合して、実習の課題を見出し探求する仕組みになっている。また、学校や教育委員会関係者を前に報告を行っており、課題設定に関して連携が取れている。ただし、その内容に関しては、学問的表現が多く、そぐわないこともあることから、実践研究論文の表現方法等についてさらに深めることを期待したい。学校における実習に関しては、附属学校の役割や特色をより明確化させるために附属学校の参加も望まれる。

基準 3-4 レベル I : 学習を進める上で適切な指導が行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生と教員の接点が多く、学習を進めるうえで、適宜・適切な指導が行われている。今後、「理論と実践の往還」を具現化した教育課程を遂行していくためには、実習を核としたコア・カリキュラム化をさらに進めていかなければならないことから、大学教員同士の授業を進めるうえでの日常的な協働が一層必要となると思われる。大学教員の協働のための工夫を今まで以上に期待したい。

基準 3-5 レベル I : 成績評価や単位認定、修了認定が大学院の水準として適切であり、有効なものとなっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

成績評価基準が、シラバスやウェブサイト等に明記され、学生に周知されており、単位認定は適切に行われている。また、複数教員がかかわる授業では合議によって厳格に評価が行われている。

【長所として特記すべき事項】

「理論と実践の往還」を実現すべく、学生の省察を大切にする教育課程が組まれている。

基準領域 4 学習成果・効果

基準 4-1 レベル I : 各教職大学院の人材養成の目的及び修得すべき知識・能力に照らして、学習の成果や効果が上がっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

授業アンケートの実施、1年次の「学校における実習」に関する学部新卒学生の自己評価結果の公表、及び研究成果発表が行われており、教育の効果が上がっている。また、学部新卒学生は修了後、常勤・非常勤の違いはあるものの教員希望の修了者全員が教職に就いており教育成果が出ている。

基準 4-2 レベル I : 修了生が教職大学院で得た学習の成果が学校等に還元できていること。また、その成果の把握に努めていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生の研究成果の発表（「岡山大学教職大学院学修のプロセス報告会要旨集」等）を通して学校に成果を還元している。また、修了した現職教員学生に対する勤務校及び教育委員会の評価は高い。さらに、修了した学部新卒学生に対する勤務校での評価も高い。毎年「教育実践研究報告書」が発刊され、学生の研究成果が公表されている。学生の研究内容に関しては、実践研究を通して新たに明らかにされた知見・発見・解釈等を表現すべく指導されていることが分かる。一方、専門職養成における執筆活動は極めて重要であると思われるが、前述のような内容の論文でよいのか、その他の形態はあるのか等について、引き続き議論を重ねていかれることを期待したい。

基準領域 5 学生への支援体制

基準 5-1 レベルⅠ：学生相談・助言体制、キャリア支援等が適切に行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学生生活に関する相談、進路選択や学修支援に関するガイダンス、ハラスメントに対する相談等、様々な学内支援体制が整備されている。

基準 5-2 レベルⅡ：学生への経済支援等が適切に行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしている取組・活動であると判断する。

入学金の免除、徴収猶予制度、授業料の免除制度、奨学金制度、研究奨励金制度等の経済支援のほか、現職教員学生を対象とした長期履修制度等が整備されている。

基準領域 6 教員組織

基準 6-1 レベルⅠ：教職大学院の運営に必要な教員が適切に配置されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

専任教員 14 名（研究者教員 8 名、実務家教員 6 名）が確保されており、適切な教員数が配置されている。女性教員が 3 名配置されているが、今後、教員の男女比についても配慮されていかれることが望まれる。

基準 6-2 レベルⅠ：教員の採用及び昇格等の基準が、適切に定められ、運用されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「岡山大学大学院教育学研究科における教員の選考・審査に関する申し合わせ」において、研究者教員及び実務家教員の選考・審査基準が定められている。今後、岡山大学教職大学院の拡大に伴い、教職大学院における研究者教員と修士課程における研究者教員の選考基準の在り方（違い）、実務家教員の実践論文等の評価の扱い等が、新たな課題として浮上してくると思われ、準備をお願いしたい。

基準 6-3 レベルⅡ：教職大学院における教育活動に関する研究活動が組織的に取り組まれていること。

評価結果・・基準の内容を満たしている取組・活動であると判断する。

平成 25 年度から平成 27 年度の各年度にはスクールリーダーの育成等に向けたワークショップやシンポジウムを開催し、平成 28 年度に「アクションリサーチを通じた『チーム学校』づくりの中核的役割を担うミドルリーダー養成・研修カリキュラムの開発」（独立行政法人教員研修センター、研修開発事業報告書）事業を展開するなど教職大学院にて組織的な研究活動が行われている。さらに日々の教育活動をより効果的に実施し、より緊密に協働研究を深めるための常時起動するような大学教員同士の学習組織づくりを進められることを期待したい。

基準 6-4 レベルⅠ：授業負担に対して適切に配慮されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

専任教員の担当授業科目数は特定の教員に負担がかからないよう適切な配慮がなされている。修士課程の授業を担当している教員が 5 名、学部教育を担当している教員が 10 名おり、幾分負担が多い

ように思われる。今後、教職大学院が拡大する中で、ゆとりを持って教職大学院の授業が担当できる
よう教員の配置に心がけるよう期待したい。

基準領域 7 施設・設備等の教育環境

基準 7-1 レベル I : 教職大学院の教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備並びに図書、
学術雑誌等の教育研究上必要な資料が整備され、有効に活用されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育現場に即し実践的な研究を行うための資料・図書(研究紀要・報告書等)、教科書等が学生室や
資料室に整備されている。ICレコーダーやビデオカメラが整備され、学生が責任を持つ形で管理さ
れている。

基準領域 8 管理運営

基準 8-1 レベル I : 各教職大学院の目的を達成するために必要な管理運営のための組織及びそれ
を支える事務組織が整備され、機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院独自の事務組織は編成されていないが、教職情報サポート室に配置された事務スタッ
フが教職大学院に関する実務を担っており、現在のところ現行の事務組織で滞りなく進められている。
しかし、今後、学生の定員の増加に伴い、事務組織の見直しが必要になると思われる。

基準 8-2 レベル I : 教職大学院における教育研究活動等を適切に遂行できる経費について、配慮
がなされていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育学研究科からの共通経費が配分されており、十分な教育研究活動を行うことができるよう配慮
がなされている。

ただし、次第に教職大学院が一丸となって取り組む行事や教育課程が増えるに従い、共通経費が不
足する事態が起きると思われる。共通経費をどのように捻出するか大学院の取組に期待したい。

基準 8-3 レベル I : 教職大学院における教育研究活動等の状況について、広く社会に周知を図る
ことができる方法によって、積極的に情報が提供されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教職大学院の教育活動の紹介や研究活動の公表が、大学院案内や広報誌の発行、ウェブサイトへの
掲載、各種シンポジウムやワークショップを通して、丁寧に行われている。

基準領域 9 点検評価・FD

基準 9-1 レベル I : 教育の状況等について点検評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るた
めの体制が整備され、取り組みが行われており、機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育の状況等についての点検評価について、大学の部局組織目標による内部評価や学生による授業
評価及び研究活動を通じた組織的な内部評価等は公表され、外部から評価を受ける形態が整っており、
形式上の問題はない。ただ、教職大学院においては、授業運営上また教育研究上、緊密な協働が必要
であり、それを実現するための組織マネジメントが不可欠である。岡山大学教職大学院が、さらなる
発展をするためにも、教職大学院の組織学習の在り方についての提案を期待したい。

基準 9-2 レベル I : 教職大学院の担当教員等に対する研修等、その資質の向上を図るための組織
的な取り組みが適切に行われていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

岡山大学教職大学院の教員は修士課程や学部の授業の担当も多いことから、日常的なFDの実施は難しいと思われるが、それだからこそ、日々FDを実施し、教員相互の理解と協働研究をすすめていくことが重要になってくるとと思われる。これまで以上のFDの実施が必要になってこよう。

基準領域10 教育委員会及び学校等との連携

基準10-1 レベルI：教職大学院の目的に照らし、教育委員会及び学校等と連携する体制が整備されていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会との「連携協力会議」が年間3回程度設けられ、岡山大学教職大学院のあり方等について継続的な協議がなされるなど、連携体制は良好に進展しており、相互理解が進んでいる。

Ⅲ 評価結果についての説明

岡山大学から平成28年10月27日付け文書にて申請のあった教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）の認証評価について、その結果をI～IIのとおり報告します。

教員養成評価機構では、「教職大学院等の認証評価に関する規程（平成21年10月20日理事会決定）」に基づき「認証評価実施要項」、「自己評価書作成要領」、「訪問調査実施要領」等により岡山大学が実施した自己評価を前提に書面調査及び訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は、機構の評価委員会の下にある評価専門部会の評価員6名が担当しました。評価員は、教職大学院等を有する大学の関係者、有識者で構成されています。評価にあたっては、教職大学院評価基準（平成21年10月20日決定）に基づき実施しました。

書面調査は、平成29年6月27日に受理した「教職大学院認証評価自己評価書」、「添付データ：1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育・研究業績」及び「添付資料一覧：資料1 国立大学法人岡山大学管理学則ほか全84点、訪問調査時追加資料：資料85 『平成30年度岡山大学大学院教育学研究科 前期入試 学生募集要項』（10-17ページ：専門職学位課程 教職実践専攻 現職教員入試（自己推薦型））ほか全6点」をもとに調査・分析しました。各評価員から主査（岡山大学教職大学院認証評価担当）に集められ、調査・分析結果を整理し、平成29年9月21日、岡山大学に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

平成29年10月12日・13日の両日、評価員6名が岡山大学教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）の訪問調査を行いました。

訪問調査では、教職大学院等関係者（責任者）及び教員との面談（2時間）、授業視察（1科目1時間30分）、学習環境の状況調査（30分）、教育委員会関係者との面談（1時間）、連携協力校校長との面談（1時間）、学生との面談（1時間）、修了生との面談（1時間）、連携協力校の視察・調査（2校1時間）、関連資料の閲覧などを実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査及び副査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、平成29年12月11日開催の評価専門部会において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、平成30年1月18日開催の第2回評価委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、岡山大学に示し、意見申立の手続きを経たのち、平成30年3月19日開催の第3回評価委員会で審議し、最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、表紙の「教職大学院の評価ポイント」、「I 認証評価結果」、「II 基準ごとの概評」で構成されています。

「教職大学院の評価ポイント」は、岡山大学教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）の教育課程、教員組織、施設・設備、そのほか教育研究活動について、評価により見出される特色等について記しています。

「I 認証評価結果」は、機構の教職大学院評価基準に適合しているか否かを記しています。適合していない場合は、その理由を付しています。

「Ⅱ 基準ごとの概評」は、基準ごとの評価結果、及び基準ごとの評価により見出される特色や問題点について記しています。

【長所として特記すべき事項】は、自己評価書に記載されている事項のうち、本評価結果にも記載すべき事項と判断したものについてのみ記しています。自己評価書に記された事項が本評価結果に載っていないとしても、大学が記した事項を否定するものではありません。

Iで認証評価基準に適合しているにもかかわらず、問題点や改善を要する事項が記載された事項は、今後、是正するような措置を講じることを求めるものです。ただし、このことについて、後日、改善報告書等の提出を求めるものではありません。

以 上

添付資料一覧

- 資料1 国立大学法人岡山大学管理学則
- 資料2 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』（p. 26：岡山大学大学院教育学研究科規程）教職大学院がめざすもの
- 資料3 平成30年度岡山大学大学院教育学研究科概要リーフレット
- 資料4 学位授与の方針（ディプロマポリシー）（岡山大学大学院教育学研究科WEBサイト）
- 資料5 平成29年度岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻【教職大学院】（専門職学位課程）第2次学生募集要項（表紙裏）
- 資料6 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科案内』（p. 2：アドミッションポリシー（入学者受入方針））
- 資料7 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 2：アドミッションポリシー（入学者受入方針））
- 資料8 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）（岡山大学大学院教育学研究科WEBサイト）
- 資料9 平成29年度岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻【教職大学院】（専門職学位課程）第2次学生募集要項（p. 6及びp. 13：入学者選抜方法等）
- 資料10 平成29年度岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻【教職大学院】（専門職学位課程）第2次学生募集要項（p. 3及びp. 10：障がい等のある方の出願）
- 資料11 「一般入試」合格者の出身大学・学部等（平成25～29年度）
- 資料12 「現職教員入試」合格者の現任校の校種・所在地等（平成25～29年度）
- 資料13 平成30年度大学院教育学研究科入試選抜選考要項
- 資料14 平成30年度大学院教育学研究科入試選抜選考に関する基本方針 専門職学位課程 教職実践専攻
- 資料15 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 3：カリキュラムの特色）
- 資料16 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 5：理論と実践が融合される教育実践研究をコアにしたカリキュラム）
- 資料17 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 3：共通科目の領域と授業科目名）
- 資料18 共通科目・選択科目の領域と授業科目名
- 資料19 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 4：教員の職能発達と、デマンドサイドのニーズに対応した選択科目の設定と履修モデル）
- 資料20 高瀬淳ほか「学校マネジメント能力をはぐくむアクションリサーチ型スクールリーダー研修の開発研究」『日本教育大学協会研究年報第34集』2016年
- 資料21 平成29年度 教職実践専攻全授業科目シラバス
- 資料22 学校における実習（新卒）と教育実践研究及び共通科目との往還図
- 資料23 日本教育大学協会研究大会での発表資料
- 資料24 文部科学省 総合的な教師力向上のための調査研究事業2015 報告書『学校マネジメント能力をはぐくむアクションリサーチ型スクールリーダー研修』岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）、2016年
- 資料25 学部新卒学生の自己課題追究の過程とその特徴
- 資料26 平成28年度 日本教職大学院協会 フォーラム発表資料（p. 6）
- 資料27 2017年度 オリエンテーション資料（教務）
- 資料28 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』（p. 4：教員の職能発達と、デマンドサイドのニーズに対応した選択科目の設定と履修モデル）
- 資料29 岡山大学大学院研究科 研究指導計画書
- 資料30 岡山大学教職大学院SNS「こらみゆ」の概要
- 資料31 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』（p. 2-10：岡山大学大学院学則）
- 資料32 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』（p. 29-30：岡山大学大学院教育学研究科規程）
- 資料33 学位授与の方針（ディプロマポリシー）（岡山大学大学院教育学研究科WEBサイト）

- 資料34 平成29年度 教職実践専攻全授業科目シラバス
- 資料35 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』 (p. 29 : 岡山大学大学院教育学研究科規程)
- 資料36 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』 (p. 58 : 履修等について 6 成績の登録及び通知)
- 資料37 授業アンケート結果 (授業満足度)
- 資料38 授業アンケート結果 (授業に対する取組/授業の成果認識)
- 資料39 学部新卒学生の自己評価結果
- 資料40 『岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院) 教育実践研究報告書』 第4号 (平成24年度) ~ 第8号 (平成28年度)
- 資料41 学部新卒学生の進路状況
- 資料42 現職教員学生の修了後の役職
- 資料43 学生の研究成果
- 資料44 在学中・修了後の受賞
- 資料45 修了生アンケート結果
- 資料46 修了後の学校改善への貢献 (事例)
- 資料47 『平成29年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』 (p. 70 : 学生相談室)
- 資料48 障がい学生支援室 (岡山大学公式WEBサイト)
- 資料49 ハラスメント防止対策室 (岡山大学公式WEBサイト)
- 資料50 キャリア・学生支援室 (岡山大学公式WEBサイト)
- 資料51 教職相談室 (岡山大学公式WEBサイト)
- 資料52 『岡山大学教育学部・教育学研究科 教職・就職ガイドブック 2017』
- 資料53 入学科・授業料免除 (岡山大学公式WEBサイト)
- 資料54 特に優れた業績による返還免除 申請者等一覧 (平成24~28年度)
- 資料55 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』 (p. 28 : 岡山大学大学院教育学研究科規程)
- 資料56 岡山大学現職教員学生支援授業料免除申請基準 (学長裁定) 平成24年10月31日
- 資料57 専任教員一覧
- 資料58 国立大学法人岡山大学教員の選考に関する規則
- 資料59 教育学研究科の人事に関する方針について
- 資料60 岡山大学大学院教育学研究科における教員の選考・審査に関する申合せ
- 資料61 文部科学省 教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業2013 報告書『学校、教育委員会及び教職大学院の三者の協働による学校のリーダー養成のための実習カリキュラム開発の研究事業』岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院)、2014年
- 資料62 文部科学省 総合的な教師力向上のための調査研究事業2014 報告書『学校マネジメント能力をはぐくむアクションリサーチ型スクールリーダー研修』岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院)、2015年
- 資料63 文部科学省 総合的な教師力向上のための調査研究事業2015 報告書『学校マネジメント能力をはぐくむアクションリサーチ型スクールリーダー研修』岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院)、2016年
- 資料64 教育活動に関する研究成果の公表 (シンポジウム等)
- 資料65 独立行政法人 教員研修センター 教員の資質向上のための研修プログラム開発事業2016 報告書『アクションリサーチを通じた「チーム学校」づくりの中核的役割を担うミドルリーダー養成・研修カリキュラムの開発』岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻 (教職大学院)、2017年
- 資料66 専任教員の担当授業科目数・指導学生数一覧
- 資料67 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科 学生便覧』 (p. 133-136 : 教育学部建物平面図)
- 資料68 教職大学院の運営に関する規則 (講座内申し合わせ)
- 資料69 教職大学院の運営に関する規則 (組織図)
- 資料70 『2017年度 岡山大学大学院教育学研究科案内』

- 資料71 『2017年度 岡山大学教職大学院案内』
- 資料72 『岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）教育実践研究報告書』第4号（平成24年度）～第8号（平成28年度）
- 資料73 『岡山大学教職大学院学修のプロセス 報告会要旨集』第4号（平成24年度）～第8号（平成28年度）
- 資料74 教育活動に関する研究成果の公表（シンポジウム等）
- 資料75 岡山大学自己評価規則
- 資料76 岡山大学部局自己評価実施規程
- 資料77 組織目標評価報告書（平成27年度）
- 資料78 日本教育大学協会研究大会での発表資料
- 資料79 国立大学法人岡山大学教員活動評価実施規程
- 資料80 国立大学法人岡山大学教員活動評価実施要項
- 資料81 日本教育大学協会研究大会での発表資料
- 資料82 京都教育大学大学院連合教職実践研究科・岡山大学教職大学院合同FD研修会配布資料
- 資料83 平成28年度 連携協力事業研究報告書
- 資料84 京都教育大学大学院連合教職実践研究科・岡山大学教職大学院合同FD研修会配布資料
（p. 2-8：岡山県教育委員会による現職教育派遣の仕組み）

〔追加資料〕

- 資料85 『平成30年度岡山大学大学院教育学研究科 前期入試 学生募集要項』（10-17ページ：専門職学位課程 教職実践専攻 現職教員入試（自己推薦型））
- 資料86 岡山県政策課題派遣に係る確認事項
- 資料87 岡山大学大学院教育学研究科教職実践専攻における教員の選考・審査にかかる研究業績・教育業績等に関する申し合わせ
- 資料88 教職大学院備品一覧
- 資料89 FDに関する資料
- 資料90 平成28年度報告会・協議会実施日程一覧